

北の妖怪展における COVID-19感染拡大予防ガイドライン

2020年7月6日作成
北の妖怪展 代表 猫宮磨

1.はじめに

本ガイドラインは、一般社団法人日本展示会協会の『展示会業界におけるCOVID-19感染拡大予防ガイドライン』および、国際美術館会議（CIMAM）が発表した「Precautions for Museums during Covid-19 Pandemic」を元に、北の妖怪展における感染拡大予防策として実施すべき事項を整理したものである。

本ガイドラインは、新型コロナウイルスの動向や社会情勢などを踏まえ、必要に応じて見直し、改訂を行う。北の妖怪展については、運営・参加者・来場者など関わるすべての人において、出来る限り安心・安全に活動できるよう努める。

2.会期中の具体的な対策について

（1）来場者の安全

1-1) 検温の実施

すべての来場者に対して、非接触型の体温計を用いて検温を実施し、体調が悪いと思われる人に注意を払う。体調不良の来場者には入館を控えてもらい、医師の診察を受けるように促す。※これにより、入口に来場者が密集してしまう場合は、これを中止、口頭での注意に切り替える

1-2) 手指の消毒あるいは洗浄

入場時に手指の消毒あるいは手洗いをを行う。会場には給湯室があるので、手洗いの際にはそちらを利用する。もしくは、入場から退場まで、運営で用意した使い捨て手袋を着用していただくようにする。

1-3) 緊急連絡先の収集

会場入口またはWeb予約システム（後述）で、来場者の連絡先（氏名、電話番号あるいはメールアドレス）を記載していただき、連絡先を追跡できるよう対策を実施する。

この時収集した個人情報、感染経路把握のために関連機関から要請があった時のみ利用し、会期終了後3週間後に破棄する。

1-4) 健康状態の確認

会場入口またはWeb予約システム（後述）で、新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がないか、来場者の渡航および健康状態を確認する。また、過去14日間に、感染拡大地域を訪問している来場者は、帰宅を促す。

当日受付スタッフは、事前に同様のことを確認し、問題ないスタッフのみ受付に立つようにする。

1-5) マスクの着用

来場者やスタッフ全員がマスクを着用する。会場内にも使い捨てマスクを常備し、マスクの着用をお忘れの方にはそちらを配布、使用していただく。また、スタッフは全員フェイスシールドを着用する。

1-6) イベントの中止

来場者と参加者の交流会および、参加者同士の交流会はすべて中止とする（会期最終日の交流会・決起会・打ち上げ）。また、飛沫感染防止の観点より、対面でのワークショップは行わないこととする。

1-7) ソーシャルディスタンスを確保する

来場者のあいだに最低1メートルの距離を確保するように、スタッフは注意を促す。また、作品間のスペースを取ることで、来場者間の密接を避け、特定の作品に多くの人がとどまる場合は、スタッフから声をかけて混雑を避ける。

1-8) 入場制限の実施

3平米あたりひとりを目安とし、会場全体で24名（スタッフ4名除く）として、必要に応じて入場制限を行う。各部屋の最大人数はA室・B室・C室共に8名を目安とし、混雑状況に応じて注意を促す。混雑状況は、随時SNSで公表する。

1-9) Web予約システムの利用

来場前に事前にWeb上で予約していただくようシステムを用意。入場制限が発生する場合は予約者を優先する。また、混雑状況を事前に把握し、SNSなどで発信する。ただし、予約しなければ来場出来ない訳ではなく、入場制限が出た際に予約者を優先的に案内するためのものである。

Web予約システムは、下記を導入予定。

<https://airregi.jp/reserve/>

1-10) 妖怪みくじについて

おみくじは、箱に手を入れてつかみ取る方式から、机に並べてある中から選ぶ方式に変更する。

(2) スタッフの安全

2-1) スタッフの検温と報告

受付スタッフは、来場前に1度、午後2時に1度検温を実施し、その結果を記録する。37.5℃以上の熱が記録された場合は、すみやかに代表に連絡し、帰宅・医師の診察を受ける。その際、診断結果が出た際は代表に連絡する。

2-2) 健康状態の把握

すべてのスタッフは、自分の健康状態を把握するよう努める。体調不良の場合は、来場を避けるようにする。

2-3) 手指の消毒あるいは洗浄

スタッフ（特に現金や物品を扱う者）は、小まめに消毒あるいは手洗いをを行う。会場には給湯室があるので、手洗いの際にはそちらを利用する。

(3) 施設管理

3-1) 施設・備品の消毒

エレベーターのボタン、貸し出し用懐中電灯など、触る機会の多い物品は小まめに消毒する。消毒液は、入口付近と会計付近、アンケート回答場所と物販入口の4か所に設置する。

3-2) 備品管理

不特定多数の接触を控えるため、今年は暗展用の龕灯は使用せず、スマートフォンや携帯電話の懐中電灯機能を利用して観覧いただく。暗展は通常より照度を上げる。懐中電灯機能を使用したくない方向けに懐中電灯の貸出も行うが、仕様の都度消毒を行う。

3-3) 会計場所について

会計スタッフはフェイスシールドを着用する。

3-4) 換気について

会場内（控室と倉庫）にある窓は開放し、備品はすべて倉庫に収納、控室はドアも開放する。3部屋ある会場も同様にドアを開放する。

(4) 啓蒙活動

4-1) 注意事項の発信

ソーシャルディスタンス、検温などにおける注意事項を、会場内ポスターやSNSなどで積極的に発信する。手洗いや消毒、マスク着用など、来場者個人で出来る予防策の喚起を行う。また、北海道コロナ感染通知システムに登録し、ポスターを会場内に掲示する。

(5) 作品の安全

5-1) 展示作品について

直接手に触れる（触れる）作品は、なるべく展示を控える。展示する場合は、消毒液を設置する、使い捨て手袋を用意するなど、展示方法について運営と作家で十分に対策の検討を行う。

5-2) 販売商品について

物販で販売を行う物は、すべて中身が確認出来る透明な袋に封入する。

3.会期前、会期後の具体的な対策について

(1) 配置計画時

来場者が密になりにくいレイアウト、動線を考慮した配置図を作成する

(2) 搬入時

搬入は少人数でグループに分けて、時間差で行う。また、事前搬入や送付搬入を利用して、搬入参加人数を最低限に抑える。なお、搬入時もマスク着用・消毒・健康状態の確認は実施する。

控室および倉庫の窓とドアは開放し、換気に努める。

(3) 会期前～会期中

来場者にWeb上で来場予約を行ってもらうことを進める。来場者数を事前に把握するとともに、入場時の検温やマスク着用、感染経路特定のために最低限の個人情報を収集する旨を記載する。

(4) 搬出時

搬入時同様、少人数でグループに分けて、時間差で行う。また、事後搬出や送付搬出を利用して、参加人数を最低限に抑える。なお、マスク着用・消毒・健康状態の確認は実施する。控室および倉庫の窓とドアは開放し、換気に努める。

4.管轄保健所、感染防止センターの連絡先

(1) 一般相談窓口

	電話番号	受付時間
新型コロナウイルスに係る厚生労働省電話窓口	0120-565653	毎日9時00分～21時00分
札幌市新型コロナウイルス一般電話相談窓口	011-632-4567	毎日9時00分～21時00分
外国人旅行者向けコールセンター (日本政府観光局) ※対応言語：英語、中国語、韓国語、日本語	050-3816-2787	24時間(年中無休)

(2) 聴覚に障害のある方をはじめ、電話での御相談が難しい方

新型コロナウイルス厚生労働省相談窓口 ファクス番号	03-3595-2756
札幌市保健所健康企画課ファクス番号	011-622-7221
札幌市保健所健康企画課メールアドレス	kenkou-eisei@city.sapporo.jp

5.参考

1) パンデミックで美術館が注意すべき20のこと(国際美術館会議(CIMAM))
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/21807>

2) 展示会業界における COVID-19 感染拡大予防ガイドライン(一般社団法人日本展示会協会)
https://www.nittenkyo.ne.jp/image/covid19_guideline_200610.pdf

6.改定内容

2020/07/13 「(1-2) 手指の消毒」を追記。「(1-5) マスクの着用」に、マスクを忘れた方用に会場で使い捨てマスクの配布を行う旨を追記。「(3-4) 換気について」に、会場の

ドアも開放する旨を追記。「(5-1) 展示作品について」に消毒液以外の方法、対策内容を作家と運営で検討する旨を追記。

2020/9/9 具体的な数値についての見直しと改訂。スタッフの人数を3人→4人とすることに伴い、入場制限の人数は30名→24名に変更。